



7/9

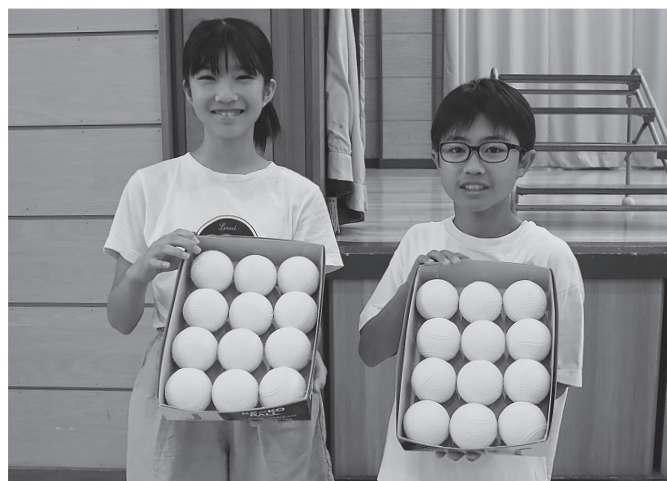
交流の証として一

中国から軟式野球ボールが届く

東京2020オリンピック・パラリンピックの際に中国女子ソフトボールのホストタウンとなり、現在も親交のある中国より、軟式野球ボール15ダースが届きました。

これは、交流事業に協賛する中国企業の北京世兆科技^{ベキンセチョウカ}有限公司^{ぎゆうげんとうし}から、町の子どもたちに「交流の証として使ってほしい」という思いからいただいたもので、届いた軟式野球ボールは、町内の小学校と野球スポーツ少年団へと配られました。

荒砥小学校では、全校集会でそのボールがお披露目され、6年生の児童たちが大切に使うためのルール説明とキャッチボールの実演を行いました。



▲届いた軟式野球ボールを手にする6年生の児童（荒砥小学校）

7/19

町内の小・中・高校生が力を合わせ

紅花の花摘みボランティア

7月10日から19日にかけて、町内の小・中・高校生および白鷹専修学校の生徒たちが、紅花の花摘みボランティアを行いました。

これは、町が誇る「紅花生産量日本一」に、より多くの子どもたちにも携わっていただくことを目的として、いるとともに、紅花の繁忙期に摘み手が不足することが毎年の課題となっており、多くの収穫量を確保すべく協力をいただいております。時折、手袋を貫通する棘の痛みにもこらえながらもひとつひとつ丁寧に摘み取りました。子どもたちが今年収穫した量は43.8kg。素晴らしい活躍ぶりをみせてくれました。



▲ひとつひとつ丁寧に摘み取りました

7/22

地域が誇る特産品に触れる

蚕桑・鮎貝小学校で天蚕の観察会を実施

この日、蚕桑小学校3年生の児童15人と鮎貝小学校3年生の児童22人が、深山地区で天蚕の観察会を行いました。

この企画は、しらたか天蚕の会（須田信一会長）が町内の子どもたちに町の特産品を知ってもらおうと毎年実施しているものです。児童たちは、桑の葉にひそむ幼虫や繭を見つけると、その様子をじっくりと観察しました。

また、天蚕は飼育の難しさから高級品として扱われていると説明され、自分たちの身近にこのような特産品があることを知り関心を高めました。



▲天蚕に興味津々な様子の児童たち



7/5

犯罪や飛行の防止と立ち直りの理解を深める 「第74回社会を明るくする運動」住民集会

この日、「第74回社会を明るくする運動」の住民集会が中央公民館で開かれました。

この運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ明るい地域社会を築くことを目的に毎年実施しており、同日に佐藤誠七町長、菅原隆男議長に内閣総理大臣メッセージが伝達されました。

集会では東北芸術工科大学非常勤講師の大村亨夫氏による記念講演が行われ、立ち直りを見守る大人の関わり方、犯罪を犯してしまう心理など、貴重なお話をお聞きし一層見識を深めました。



▲内閣総理大臣メッセージが伝達される様子

7/5

田舎に誇りが持てるまでー 白鷹町 PTA 連絡協議会研究集会

この日、白鷹町産業センターにて、白鷹町 PTA 連絡協議会研究集会が開催され、山形在住の人気動画クリエイターとして活動している、勝手にオネーサン氏が講演を行いました。

講演では、田舎に誇りが持てるようになった経緯など、自身の教訓を交えて話しました。「どうして山形県民は、大人になるまで山形の良さに気づけないのか。それは、大人が地元コンプレックスを抱き、子どもたちに山形の良さを伝えていないから」と話し、大人が子どもたちに伝えるべき“地元愛”の重要性を知るきっかけとなりました。

- ▶最後は記念撮影のサービスも！
- ▼地元愛を熱く語る勝手にオネーサン



7/7

七夕に、夕涼みを堪能するー 「あらとのヒカリ」夕涼み会

七夕となるこの日、荒砥地区コミュニティセンターでは、あらとのヒカリと題して夕涼み会が開催されました。

コロナ禍以降、地域住民が楽しく集うイベント等がなくなったことをきっかけに、もう一度地域を盛り上げようと、新たなイベントとして誕生させたものです。

あいにくの雨模様ではありましたが、大勢の地元住民の方が駆けつけ、やきそばやカレーといった屋台をはじめ、サックス演奏やフラダンスの披露が行われ、優雅なひとときを過ごしました。

- ▶「あらとのヒカリ」と書かれた看板 淡い光がとても綺麗でした！
- ▼イルミネーションの前で記念撮影！

